

開催館名 海とくらしの史料館

企画展名 サメ展

開催期間：2024年7月20日（土）～2024年9月2日（月）



海とくらしの史料館 外観



企画展会場 入口



サメの剥製展示状況



サメの講演会の状況

【企画展の内容・目的】

- サメを通じて生態と海洋環境の学びを促すため、なぜ、サメが絶滅危惧種になってしまうのか？などの知識を自ら収集し、永続的に漁業と海洋環境を考えることのできる人材を増やすための企画を行った。
- 関連事業としてサメ研究の講演会・哺乳類とサメの骨格の講演会を行う。サメの生態はどのように発見され、研究されるのか研究者の話を聞いた。また、骨格レプリカを直接さわって、骨と筋肉の構造を体験していただいた。
- 関連事業としてシャークカツ振舞を行う。食べてわかる、サメ肉のおいしさと、サメの食文化を体験していただいた。
- 絶滅危惧種のサメの紹介やSDGs目標14の取り組みを紹介し、サメと海の関係性をわかりやすく紹介した。

展示会場の様子

- 開催期間：2024年7月20日（木）～2024年9月2日（月）
- 開催場所：海とくらしの史料館 第1・4展示室・企画展示室
- 入場者数：5535 人

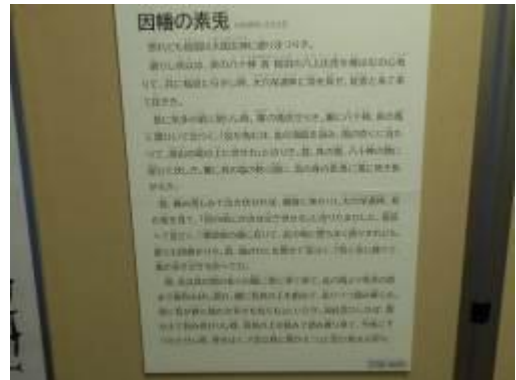


サメのはく製を40種展示。サメに顔を近づけて存分に観察できる。絶滅危惧種等のサメには、その旨を表示したキャプションがついており、生息状況をしることができる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



江戸時代のサメ絵図では、江戸時代から明治時代に描かれたサメの絵の複製を展示。見て描いたのか、空想なのか、曖昧な分類も楽しみの一つ。江戸の人々がサメをどう捉えていたのか、サメ文化がわかる。



山陰の和邇（わに）伝説では、鳥取県で発掘されたサメの線刻画や、出雲風土記に記載されたサメ伝説を展示。古来より続くサメと人間との関係、それは伝説となり今に伝わる。



中国地方におけるサメの食文化パネルでは、香川大学 畦五月教授の論文を展示。山間部に残るサメ食文化の理由と食べ方を展示。



よくわかるサメパネル展では、沖縄美ら海水族館の協力をいただき、サメの基本的な生態を紹介。また、サメを取り巻く海の環境を紹介し、絶滅危惧種のサメとSDGsについて紹介している。また、幼児向けにすべて「ひらがな」のパネルも作成した。

【来館者の声】

○サメの種類の多さや、昔からサメと人とのつながりなど、とてもおもしろかったです。

海をきれいにして、たくさんの魚が安心して住める、そして私たちも安心して魚を食べられるようにしたいとおもいました。(48 歳)

○サメの展示をみにきました、身体の部分で「けっこく」というのを知りました。陸・海・空はつながっているというみで、どの環境にもなるべくよいようにと思います。(66 歳)

○かっこの良さ、海の生き物の大切さを学びました。小さいころからうみの生き物や海の事が大好きだから知ることができてうれしいです。(9 歳)

○推しを守るために環境に悪影響があることはしないようにしないといけない(26 歳)

関連事業の様子

■ 沖縄美ら海水族館 統括 佐藤圭一博士 講演

【開催日時】2024年7月28日（日）

11:00～12:00・13:00～14:00

【開催場所】海とくらしの史料館 第1展示室

【参加者数】70名

【目標・内容】

- 演題「サメ学の表と裏を本音で語る・美ら海に身を投じた研究者のよもやま話」
- 沖縄美ら海水族館が発見したサメの生態と研究の紹介
- ジンバイザメの生態とホホジロザメの最新生態に加え、ヒレナガフジクジラの人工子宮装置などのお話をいただく。年齢問わず好評で、サメから海洋を伺えた。



世界的なサメの研究機関でもある沖縄美ら海水族館。その研究の成果の一部を紹介していただいた。講演後は佐藤圭一博士に質問をする子供と大人で列ができた。サメと海洋についての不思議と興味の詰まった講演となった。講演の様子は動画放映している。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

○佐藤先生のご講演で自分の知らないサメの世界を知ることができて楽しかったです。
(40 歳)

○海は人がなかなか入れないので、陸上より調査がおくれているほとんど知られていないことがわかり算全でした。もっと海についてたくさんの人が知りたくさんの問題を解説する方法を出し合うべきだと思いました。(15 歳)

○サメは怖いというイメージしかなかったけど、年間 67.5 萬トンも捕獲されていて数が減っている。少なくなってしまうえば増やすことは難しいので、豊かな海を守りサメを保護することが大切だとわかった。(41 歳)

○佐藤先生の話と質問に答えていただいてよかった。(5 歳)

■ 路上博物館 森健人博士 講演

【開催日時】2024年8月17日（土）

11:00～12:00・13:00～14:00

8月18日（日）

11:00～12:00

【開催場所】海とくらしの史料館 第1展示室

【参加者数】80名

【目標・内容】

- 演題「骨の読み方」
- 3Dプリンタで出力したさわれる哺乳類の頭骨を用いて骨と筋肉の関係などの話
- 肉を食べる動物はサメだけではない、ライオンも、人間もたべる、「歯とかみあわせ」についての話。



「博物館をもっと身近に」をコンセプトとした路上博物館。哺乳類の頭骨を3Dプリンタで出力し、触れる骨格を用いて、講演を行った。かむ力が強いということは、多くの筋肉を持っているということです。その筋肉を持つために頭蓋骨の形がどのように変化しているのか観察できた。

【来館者の声】

○骨が大事ということ（8 歳）

○米子に住んでいますが、こんなに興味深い話がきけるとはおもわなかったです。（47 歳）

○サメの歯はチクチクのことがわかりました。（9 歳）

○サメの事をあらためて知った（12 歳）

○サメは歯がいっぱい生えているところ（8 歳）

■シャークカツ振舞

【開催日時】2024年7月20・21・28日

8月4・11・12・17・18日

14:00～

【開催場所】海とくらしの史料館中庭

【参加者数】300名

【目標・内容】

- 境港市の村尾蒲鉾製造の「シャークカツ」を振舞った。食したほぼすべての方が完食している。(ヨシキリザメ60%大山どり30%チーズ10%)
- サメは練り物によく入っていたが、近年は稀である。実は知っているサメの味。食べてわかるサメ肉のおいしさと、サメの食文化。



サメは練り物によく入っていたが、近年は少なくなっています。おいしいサメはこんな味がするというのを、感じて、そのサメを見て、サメを通して海を考える動機をつくる取り組み。

【来館者の声】

- サメカツを食べておいしかったです（12 歳）
- 医療現場に生かせたらいいと思いました。（31 歳）
- サメの食べ物がうまかった。（12 歳）

【事業全体のまとめ】

常設展示において、江戸時代のサメ絵図・中国地方のサメの食文化・よくわかるサメパネル展。それぞれアンケートで評価をいただけた。特にサメパネル展はすべて「ひらがな」の子供向けパネルが想像以上にアンケートで好評であった。サメから絶滅危惧種・海洋環境・サステナブルシーフードの話の流れも理解いただいた方が多くてよかった。また、展示内容として生態・歴史・文化のパネルとサメの剥製の相乗効果があったと思われる。

また、関連事業として、沖縄美ら海水族館の佐藤圭一博士をお呼びできたことは非常にうれしく、サメ初心者からサメマニアも満足の内容であった。

海という大きな話に、サメからアプローチすることは、影響力が強いと感じました。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 米子市立図書館	巡回サメ展
2.	
3.	
4.	
5.	

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. BSS 山陰放送ラジオ	「ラフリー」 7月10日 ゲスト出演
2. NHK 鳥取放送局	「いろどり」 7月19日 ふるさと伝言版出演
3. DARAZU（だらず）FM	ひるまえ switcher 8月26日 レギュラー出演
4. 日本海新聞	8月27日 貴重なはく製やユーモラス絵図も
5. 中海テレビ放送	コムコムスタジオ 11月1日 海とくらしの史料館特集

以上